

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「木曽路」古木を訪ねて事業
事業主体 (連絡先)	木曽広域連合 木曽郡木曽町日義4898-37
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	884,660円 (うち支援金: 639,000円)

事業内容

平成28年度に木曽古木紹介パンフレット「木曽路古木を訪ねて」では、木曽の歴史の中で人々の暮らしの傍らにあり、今もなお私たちの前に立っている木々を紹介している。木一本一本には長い歴史があり物語があるため、それを紹介する案内看板を現地に設置した。

また、パンフレットで紹介している古木を新たな観光スポットとするためにワードラリーを実施し、応募者へ木曽路ならではの木工品を景品として贈呈した。

- ①木曽町三岳の「小島のウバヒガン」案内看板
- ②大桑村須原の「岩出観音のカエデ」案内看板
- ③パンフレットに掲載されている古木のうち13箇所を選定し、そのうち3箇所を巡った応募者に木曽路の木工製品を景品として贈呈した。



【古木の案内看板設置】

【目標・ねらい】

- ①木曽の古木の歴史・文化などを説明し、木曽路をより知ってもらおう。(②も同じ)
- ③ 木曽路周遊の誘発とイメージ調査

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・古木案内看板は、木曽広域公共サインシステムに沿った景観に配慮した看板で、古木の説明が日本語と英語で表記した。
- ・木曽路に散在する古木を観光スポットとして提案したことにより、知られざる木曽路の魅力を認識してもらえた。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① ②新たな地域資源として古木の案内看板を整備したことにより、新たな観光客等の誘客に期待が膨らんだ。
- ③ 新たな観光スポットの提示とラリー事業により、木曽路周遊のきっかけとなり、観光客の滞留時間が伸びた。また、木曽路の感想をもらえた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

平成28年4月25日に日本遺産に認定された「木曽路はすべて山の中 ～山を守り 山に生きる～」のストーリーと、同年度に作成した木曽古木紹介パンフレット「木曽路 古木を訪ねて」を活用し、木曽路の観光資源の一つとして古木が新たな観光スポットとなることを目指し、観光施策と行うと共に、より一層の情報発信を行い木曽路への観光誘客を推進する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある